

**「麻布大学雑誌」**

**投 稿 規 程**

## 「麻布大学雑誌」投稿規程

### 第1条 (趣旨)

麻布大学および麻布大学大学院における学術研究の促進および教育への寄与を目的として、麻布大学雑誌を発行する。

### 第2条 (発行および編集)

本誌の編集および発行は麻布大学雑誌編集委員会(以下「編集委員会」)が行う。

### 第3条 (発行時期)

本誌は原則として6月、12月の年2回発行とする。

### 第4条 (投稿資格)

本誌に投稿出来る者は、以下の通りである。ただし、3. 4. 5. に該当する者が投稿する場合は、本学専任教員の推薦が必要である。

1. 本学の専任教員
2. 本学の非常勤教員
3. 1. 2. に該当する者との共同研究者
4. 本学の大学院生
5. その他編集委員会が特に投稿を認めた者

### 第5条 (投稿論文・掲載記事)

投稿論文は原著論文(学術論文)、総説、翻訳、書評、その他編集委員会が認めたものとする。また麻布獣医学会および環境科学研究会発表要旨、および学術交流報告は記事として掲載する。

### 第6条 (転載の禁止)

他の雑誌等に掲載された原著論文、総説、研究ノート、翻訳、書評等はこれを掲載しない。

### 第7条 (原稿の形式・送付先)

原稿は原則として日本語もしくは英語とし、

コピー3部とフロッピーディスクを事務局まで送付する。執筆要項は別に定める。

送付先：〒229-8501

神奈川県相模原市淵野辺 1-17-71

麻布大学内

麻布大学雑誌編集事務局

電話 042-754-7111

### 第8条 (原稿の申込み)

投稿希望者は、発行時期に準じた編集委員会の公示する期限までに、同委員会の提示する申込用紙に氏名・題名を提出する。

### 第9条 (提出期限)

投稿は、編集委員会の定める期限までにこれを行う。

### 第10条 (審査)

投稿論文は、編集委員会が選任する2名の審査員によって審査される。

### 第11条 (採用)

編集委員会は、審査報告を受けて、掲載の可否を決定する。また、編集委員会は投稿者に対して修正意見を述べることができる。

### 第12条 (校正)

校正は原則として第二稿までとし、大幅な内容の修正は行わないものとする。

### 第13条 (別刷り)

投稿論文1編につき別刷り50部を贈呈する。50部を越える別刷りは実費を支払うものとする。

### 第14条 (著作権)

本誌に掲載された論文・記事の著作権はすべて編集委員会に帰するものとする。

## 科学論文(英語)の執筆要項

### 1. 一般的注意事項

- 1) 論文の記述は正確を期し、全編にわたり簡潔明瞭であること。内容の繰り返しや図と表の重複などはさける。また、字体はTimes体が望ましい。ボールド体での印字はさける。
- 2) 書き方が不備の場合には原稿の作成し直しを求められることがある。
- 3) 用紙はA4判(210 mm×297 mm)の無地白色紙を用いる。半透明なもの、機関などの文字が印刷してあるものは用いない。
- 4) 上下と左右に3cm以上の余白をとり、1枚あたり60ストローク×28行を標準とする。
- 5) 原稿は用紙の片面のみタイプ(またはコピー)する。
- 6) 右揃えは行わない。
- 7) 論文の書き出しや改行の時は5ストロークさげる。
- 8) 単語の途中で改行しない。
- 9) 図表の挿入希望位置を原稿右側欄外に赤で記入する。
- 10) 字体の指定はローマンで印字し、アンダーラインの種類で区別する。イタリック体には $\sim$ 、ボールド体には $\sim$ 、小キャピタルには $\sim$ 。
- 11) ページの番号は各原稿用紙の下中央に入れ、表紙を第1ページとする。

### 2. 表紙と Key words

- 1) 第一ページを表紙ページとする。表紙ページには上から順に、以下の事項を記載する。
  - (1) Running title
  - (2) 表題
  - (3) 著者名 (full name)
  - (4) 研究の行われた機関とその所在地、国内からの投稿者は、和文の郵便宛先を併記(手書きでも可)。
  - (5) 表紙脚注(Corresponding authorを書き、そのFAX番号、E-mail addressを記入する。Present addressが必要な場合には郵便配送がなされるように正しく記入する。)
  - (6) 表題は内容を具体的に表し、かつ簡潔であること。表題中には定義無しで使用できる略号以外の略号や化学式は用いてはならない。
  - (7) Running title は語間も含めて60ストローク以内で論文の内容をよく表すものとする。定義なし

で使える略号(例: ATP),  
 簡単な化学記号(例: O<sub>2</sub>),  
 略した生物名(例: *E. coli*)  
 は用いてよい。

- 2) 第2ページから本文を始める。

表紙ページ記載内容が1ページに収まらないときは、2ページにわたってもよい。この場合、本文は第3ページから始める。

### 3. 論文の形式

- 1) 論文は次の形式をとる。
  - (1) Abstract (150語以内)
  - (2) Key words (内容をよく表す words や phrases を5つ以内列記し、特色のない一般的な用語はさける。)
  - (3) Introduction
  - (4) Materials and Methods
  - (5) Results (Results and Discussion としてもよい)
  - (6) Discussion
  - (7) Acknowledgment
  - (8) References の順とする。
- 2) 図表は本文中ではFig. 1, Table 2, などのように書く。
- 3) 文献の引用は本文中の該当人名または事項の右肩に引用の順に<sup>1)</sup>, <sup>2,3)</sup>, <sup>1-3)</sup>のように番号を付し、一括してReferencesに記載する。
- 4) 印刷中の論文はReferencesに入れるが、私信や未発表結果(投稿中の論文も含む)、はReferencesとせず、本文中に括弧に入れて引用する。  
 例 (Kornberg, A., personal communication).

(Kaneko, R. and Sueoka, N., unpublished results).

- 5) 他の論文の著者名を引用するときは混乱の起らない限り姓のみとする。著者が2人の論文は両者の姓を併記し、3人以上の場合は第1著者以外を *et al.* と略記する。
- 6) 定義を必要とする略号や記号の使用は最小限にとどめる。  
 使用するときには本文の初出の箇所に正式名を書き、続けて略号を括弧表記する。
- 7) 脚注は、本文中に現れた事項の右肩にアスタリスク(\*)を付し、そのページの下方に線を引き、その下に\*とともに記入する。同一ページに数個の注があるときは\*の数によって区別する。

### 4. 引用文献

- 1) Referencesには、本文中での引用順に片括弧付きの番号を付して記載する。
- 2) 著者名は、著者全員の姓、名のイニシャルの順で

記し、titleは全文を、ページは最初と最後のページを、出版年は括弧内に入れて記載する。(以下参照)。

a) 雑誌引用の場合、雑誌名の省略はChemical Abstractsの用例に従う。

雑誌名はイタリック、巻はボールドとする。和文誌の場合は誌名を省略せずにローマ字(イタリック)で示し、その後に括弧でin Japanesを入れる。採択決定の通知を受けた投稿論文を引用するときは、雑誌名の後にin pressと書き、校正時まで刊行されていれば、巻、ページ、発行年を記入する。

- 1) Hoshino, T., Kobayashi, K., Ishibashi, E., and Hashimoto, S., Inhibitory activity of 8-azadecalinal derivatives towards 2,3- oxidosqualene: Lanosterol cyclase from baker's yeast and pig's liver. *Biosci. Biotech. Biochem.*, **59**, 602-609 (1995).
- 2) Sasaki, K., Iwanaga, C., Watanabe, M., Suzuki, K., Hamaoka, T., and Kondo, S., Correlation between sensory good taste and chemical composition in natural and mineral water. *Nippon Nogekagaku Kaishi* (in Japanese), **70**, 1103-1116 (1996).
- 3) Sue, M., Miyoshi, H., and Iwamura, H., Specific interaction of cytokinins and their analogs with rotenone-sensitive internal NADH dehydrogenase in potato tuber mitochondria. *Biosci. Biotech. Biochem.*, in press.

b) 書籍引用の場合

- 1) Lenton, J. R. and Appleford, N. E. J., Gibberellin production and action during germination of wheat. In "Gibberellins", eds. Takahashi, N., Phinney, B. O., and MacMillan, J., Springer-Verlag, New York, pp.125-135 (1990).

c) 特許の場合

- 1) Kunstman, M. P. and Prote, J. N., U. S. Patent 3803306 (Apr. 9, 1974).
- 2) Yamaguchi, H., Sato, S., and Takada, K., Japan Kokai Tokyo Koho, 85259190 (Dec. 21, 1975).

## 5. 表

- 1) 表はアラビア数字で番号を付し、Table 1, Table 2のように書く。表ごとに別紙(本文と同じ用紙)に作成する。
- 2) 表には内容を適切に示す題目をつけ、さらに本文を読まなくても必要な実験条件がわかるような説明をつける。ただし、Materials and Methodsや他の図表に記されている実験条件は反復することな

く、それらを引用する。

- 3) 単語はrow(行), column(列)とも極力略語を用いて短くする(Chemical Abstractsの例による)。
- 4) 横の文字数120字(印刷面の幅一杯), または60字(印刷面の1/2幅)を基準とする。

## 6. 図

- 1) 印刷には著者の原図をそのまま使用する。複写印刷に適さない場合は書き直しを求めると注意されたい。
- 2) 図は1つごとに別紙に作成する。各葉下部余白に図の番号(Fig. 1, Fig. 2など本文と同じもの)と著者名を書く。また、図の上下を指定する。
- 3) 図のタイトルおよび説明は別紙にFigure legendsをもうけ、番号順に記載する。説明分は、本文を読まなくても必要な実験条件や内容が分かるように書く。ただし、Materials and Methodsや他の図表に記されている実験条件は反復することなく、それらを引用する。タイトルと説明分の間は1行あけ、また前図説明文と次図タイトルとの間は4行の空白をとる。
- 4) 図はA4白紙に描く。最終的な縮図比は本会において決定する。
- 5) 図の周囲は少なくとも3 cmの空白を残す。
- 6) グラフの両座標軸の表記には、縮尺に耐える大きさの数字や文字を用いる。
- 7) グラフは、○●▲△□■×などをなるべくこの順で用いて実験値をプロットし、直・曲線は—, ·····, ----, -----, などで記入する。実験値のプロットなしに線のみで結果を表示することはさける。

## 7. 写真

- 1) プリントした鮮明なものを3枚用意し、それぞれ本文と同じ用紙を台紙として糊づけする。
- 2) 写真はFig. 番号をつけて図として取り扱う。
- 3) 雑誌掲載時の縮尺は図に準ずる。電子顕微鏡写真は希望する縮尺を指定できるが、印刷面1ページを越えてはならない。  
また、顕微鏡写真中には必ずスケールバーを入れる。
- 4) モノクロ写真として印刷するときは、あらかじめモノクロにプリントとしたものを提出する。
- 5) カラー印刷を希望する時は、その旨記入する。

## 8. 構造式

- 1) 構造式の書き方は図の書き方に準ずる。
- 2) 構造式のみを補足的に書くときはFig.番号や表題を

つけなくてもよいが、多数の構造式を用いて反応の順序を示すときなどは、Fig. 番号またはScheme番号(1, 2など)を付し、図の場合と同様に取り扱う。

- 3) 印刷面の構造式の大きさは、図の場合の縮尺に準ずる。

## 9. 数式

- 1) 数式は極力1行内に収まるように書く。

(例) (a)  $i_a = 650nD^{1/2}cm^{2/3}t^{1/6}$

(b)  $E = E - (RT/nF)\ln(a/a_0)$

- 2) Exponentの分数はなるべく $Q/RT$ のように書く。

## 10. 単位と略号

種々の物理量の単位およびその用語と記号は国際単位系SI(metric system)を基本とするが、各学問分野で慣用的に用いているSI単位に書き換え難いものは使用しても差し支えない。ただし、1つの論文中に2種類の単位系を混用してはならない(例:  $kg/cm^2$ とbarなど)。

## 11. 物質の略称ならびに表示法

- 1) 常用的に使用される物質名の内、極めて使用頻度が高く、また使い方が国際的に共通の略称で統一されている物質名については、定義なしで略称を用いることができる。

アミノ酸、糖類および核酸は高分子中の残基を示す場合のみ略号を用いてよいが、遊離の物質は略記してはならない。

生化学分野で用いられる物質の略称は、IUPACIUB Commissionの暫定ルールおよび提案に従う。酵素の場合は、常用名のほか国際生化学・分子生物学連合が推奨する推奨名を用いることとし、初出の箇所に同連合が定める系統名と分類コードを記す。

- 2) Materials and Methodsにおいては、簡単な官能基、慣用溶媒、試薬および化合物について、紛らわしくないときには著者の選択において略号や分子式で表示してもよい。ただし、同一物の表示に、略号、分子式、物質名を混用しない。

例: Me, Et, Pr, Bu, Ph, AcOH, Bz, Ar, X, CO<sub>2</sub>H, iso-BuOH

- 3) 無機化合物および有機化合物の命名法は、IUPACのルールに従う。  
4) 本文中に書く化合物は化学式によらず、名称による。  
5) 同位元素標識化合物の標識した位置を表示する場合は、[ ]内に位置と核種を指定する。

例: L- [2,3-<sup>3</sup>H] alanine, [U-<sup>14</sup>C] alanine.

ラベル位置を特定しないときは[ ]はつけない。

例: <sup>14</sup>C-Ribosome, <sup>32</sup>P-labeled.

## 6)

- (a) *o* (ortho), *m* (meta), *p* (para), *n* (normal), *sec* (secondary), *tert* (tertiary), *cis*, *trans*, *guache*, *erythro*, *threo*, *syn*, *anti*, 光学活性、不活性を示す *d* (dextro), *l* (laevo), *dl* (racemic), *i* (inactive)などの接頭語や置換基を示す N, O, C等はイタリック(ローマンに下線を引いて表示)を用いる。

- (b) 立体配置の系統を示すためには, D, L, DL (小cap.)を用いる。

絶対配置には (R), (S)を, 幾何異性には E, Z)を使用する。ただし、環状化合物の相対立体構造については *cis*, *trans*を用いる。

## 12. 学名

生物の学名はイタリック体を用いる。

## 13. 数字の書き方

- 1) 数字はアラビア数字を用いる。本文中では零は0とは書かず, zeroとする。

- 2) 文頭に数字がくるときは, 単位も含めspell outする(例: Five grams)。

小数は0.1234のように書く。桁数を累乗で示すときは $6.02 \times 10^{23}$ のように書く。大きな数字を区切るときは, 3桁目ごとにコンマを入れる。

## 14. 分析値の表示法

分析値の表示は, 通常Materials and Methodsで行う。

測定法の略称, 測定単位, 測定値, 帰属などを盛り込んで簡潔に記載する。

[ $\alpha$ ] <sup>20</sup>D-35° (c 1.0, CHCl<sub>3</sub>) UV $\lambda_{max}$  (EtOH)nm ( $\epsilon$ ):

238 (10,050), 288 (9,880) IR $\nu_{max}$  (nujol) cm<sup>-1</sup>: 1762 (O-C=O),

1640 (C=O) NMR $\sigma$ H, (CDCl<sub>3</sub>): 2.25 (2H, quartet,

$J=7$ Hz, O-CH<sub>2</sub>-Me), 4.28 (2H, NH<sub>2</sub>) $\sigma$ を用いて

化学シフトを示す場合は $\sigma$ H,  $\sigma$ Cのように測定

核種を明示する。ただし, 紛らわしくない場合は単に $\delta$ のみでもよい。

ORD (c 0.018, MeOH) [ $\alpha$ ] <sup>31</sup>(nm): -21°(589),

-38°(400).

X-ray  $2\theta_{cu-k\alpha}$ : 18.8' (d=4.72Å), 20.5 (d=3.65Å)

MS  $m/z$ : 154 (M<sup>+</sup>), 139 (M<sup>+</sup> - CH<sub>3</sub>). EIMS,

CIMS, FABMSなどイオン化条件を含めてもよい。

HRMS $m/z$  (M<sup>+</sup>): Calcd. for C<sub>29</sub>H<sub>36</sub>O<sub>10</sub>: 534. 151.

Found: 534. 150.

元素分析値Found: C, 70.01; H, 8.83; N, 3.68. Calcd. for C<sub>22</sub>H<sub>23</sub>O<sub>4</sub>N: C 70.36; H 8.86; N, 3.45のように記す。

有機化学の論文においては、やむを得ない場合を除き全ての新規化合物について元素分析値、あるいは高分解能マスペクトルデータを必ず付記する。構造解析の論文においては、分子式決定の根拠となるデータ(元素分析値または高分解能マスペクトルデータ)を必ず報告する。高分解能マスペクトルデータが測定できない試料については、分子量決定の根拠したデータをつける。

### 15. 間違えやすい文字や数字

- 1) 間違えやすい文字や数字は、誤植を避けるため余白に指示をつける。O(オー), 0(ゼロ), 1(エル), 1(イチ), I(アイ)など、ギリシャ文字にはイプシロン, クシイのように発音を記入する。
- 2) superscript, subscriptはそれぞれ $\vee$ や $\wedge$ で上下を指定する。  
例: Ishikawa  $\vee$  CH <sup>$\wedge$</sup> 3

### 16. 新規のDNA塩基配列に関する論文について

データをDDBJ等のデータベースに登録し、登録番号(Accession Number)を初出の箇所に( )を付して示す。

また、X線結晶構造解析の原子座標のデータについてもPDB, CCDC等のデータベースに登録することが望ましい。

## 科学論文(日本語)の執筆要項

### 1. 一般的注意事項

- 1) 原稿はコンピューターを用いて、A4版の用紙を縦長にして25字×28行とし、文字間隔とも適当にとり、読みやすいようにする。なお、手書きでもかまわないが、A4版の適当な字数の升目の入った用紙を使用すること。原稿は、片方の面のみ印字すること。
- 2) 図表の挿入希望位置を、原稿の右側欄外に図表番号を赤で記入すること。
- 3) 字体の指定は、原稿上で行ってもかまわないが、アンダーラインの種類で区別する方がわかりやすい。イタリックは(—), ボールド(太字)には(~~~~),

スモールキャピタルには(\_\_\_\_)。

- 4) 原稿のページは、各用紙の下中央に入れ、表紙から1ページ目とする。

### 2. 表紙と Key words

- 1) 第1ページを表紙ページとする。表紙ページには上から順に(1)表題, (2)著者名, (3)研究の行われた機関とその所在地。
- 2) 表題は内容を具体的に表し、かつ簡潔であること。表題中には、化学式や定義なしで使用できる略号以外の略号や化学式は用いてはならない。
- 3) 大題目にシリーズ番号を付し副題目をつける形式をとる場合には、副題目を上記表題とし、大題目およびシリーズ番号は脚注を利用する。
- 4) 表題および著者に関する脚注は表紙脚注とし、表紙下段に記す。また、研究の行われた場所と現在の所属機関が異なるときは著者に対する脚注に現所属機関とその所在地を書く。
- 5) 第2ページにabstract及びKey wordsを英語で記載する。Abstractは、表題、著者名、所属機関名、内容の順にタイプし、内容は200語以内とする。上下と左右に3cmの余白をとること。1枚あたり60ストローク×28行とする。図表は入れないこと。Key wordsは内容をよく表す語(words/phrases)を5つ以内列記する。特色のない一般的な用語は極力さけること。本文は第3ページから始める。

### 3. 論文の形式

- 1) 一般報文は次の形式をとる。  
(1)緒言, (2)実験方法, (3)実験結果, (4)考察, (5)要約, (6)文献の順とする。また、有機化学関係の場合には主文、実験方法、文献の順に記載することが望ましい。  
謝辞を入れる場合は文献の前に入れる。
- 2) ノートおよび速報は項目分けをせず、本文と文献の順に記載する。ただし有機化学関係のノートでは、本文を主文と実験方法に分けてもよい。
- 3) 図表は本文中ではFig. 1, Table 2(あるいは図1, 表2)などのように書く。
- 4) 文献の引用: 本文中に該当人名または事項の右肩に引用の順に(1), (1~3)のように番号を付し、一括して文献の項に記載する。
- 5) 私信、未発表結果、投稿中の論文は文献にはいれず、本文中に括弧に入れて引用する。上記のうち投稿中の論文を本文中に引用した場合で校正時までその論文の掲載が確定したものについては、①参考文献の項の最後部に続き番号をつけ、同じ形式で記載する。②本文中の括弧書きの注の肩に

その番号を記載する。なお他人の未発表結果を私信として引用するときは予め本人の了承を得ておくこと。

- 6) 他の論文の著者名を引用するときは混乱の起こらない限り姓のみとする。著者が2人の論文は両者の姓を併記し、3人以上の場合は第1著者以外を「他」と略記する。
- 7) 定義を必要とする略号や記号の使用は最小限にとどめる。  
使用するときは、初出の箇所に正式名を書き、続けて括弧に入れて略号を示す。用いた略号は第1ページ脚注に一括して表示する。表題では定義を要する略号は使用しない。
- 8) 脚注は、本文中に現れた事項の右肩に\* (アスタリスク)を付し、そのページの下方に線を引き、その下に\*とともに記入する。同一ページに数個の注があるときは\*の数によって区別する。

#### 4. 引用文献

- 1) 引用文献には、本文中での引用順に番号を付して記載する。
- 2) 著者名は姓名とも記し、著者全員を記載する。なお、ページは最初と最後のページを記すこと。文献は著者名、雑誌名(書名)、巻、ページ、発行年の順に記し、欧文雑誌名はイタリック、巻はボールドとする。

(例)堀江 雄, 木村邦男, 井田雅夫: 農化, 63, 975-980 (1991)

受理決定の通知を受けた投稿論文を引用する時は、雑誌名の後に「印刷中」と書き、校正時まで刊行されていれば、巻、ページ、発行年を記入のこと。

和文雑誌名は、科学技術文献速報、国内化学および化学工業編、欧文雑誌名はBiological AbstractsおよびChemical Abstractsの用例に従うこと。

#### 5. 表

- 1) 表の表題、内容は英語(または日本語)とする。
- 2) 表はローマ数字で番号を付し、Table1, Table2(日本語の場合は、表1, 表2)のように書く。表ごとに別紙(A4判)に記入する。
- 3) 横の文字数は80字(印刷面の幅一杯)、または40字(印刷面の1/2幅)を基準とする(日本語の場合には50字または25字を基準とする)。
- 4) 表には内容を適切に示す題目をつけ、さらに本文を読まなくても必要な実験条件がわかるような説明をつける。ただし、実験方法や他の図表に記載されている実験条件は反復することなくそれらを引

用すること。

#### 6. 図

- 1) 印刷には著者の原図をそのまま使用する。不鮮明な場合は書き直しを求めるので注意されたい。
- 2) 図は1つごと別紙に作成する。各葉下部余白に図の番号(Fig. 1, Fig. 2など)と著者名を書く。また、図の上下を指定する。
- 3) 図のタイトルおよび説明は、別紙に番号順に記載する。図の表題、内容、説明とする。

#### 7. 写真

- 1) プリントした鮮明なものを3枚用意する。紛失をさけるためにそれぞれ本文と同じ用紙を台紙として糊付けし、下部余白に名前を記入する。
- 2) 写真にはFig. 番号をつけて図として取り扱う。
- 3) 雑誌掲載時の縮尺は図に準ずる。ただし、電子顕微鏡写真は希望する縮尺を指定できるが、印刷面1ページを越えないこと。また、顕微鏡写真中には必ずスケールバーを入れること。
- 4) 白黒写真として印刷するときは、あらかじめ白黒にプリントしたものを送付する。
- 5) アート紙印刷およびカラー印刷希望の有無を記入する。

#### 8. 構造式

- 1) 構造式の書き方は図の書き方に準ずる。
- 2) 構造式のみを補足的に書くときはFig. 番号や表題をつけなくてもよいが、多数の構造式を用いて反応の順序を示すときなどは、Fig. 番号またはScheme 番号(1, 2など)を付し、それぞれを図またはスキームとして取り扱う。
- 3) 印刷面の構造式の大きさは、図の場合の縮尺に準ずる。

#### 9. 数式

- 1) 数式は極力1行内に収まるように書く。  
(例) (a)  $i_a = 650nD^{1/2}cm^{2/3}t^{1/6}$   
(b)  $E = E - (RT/nF)\ln(a_i/a_0)$
- 2) Exponentの分数はなるべく $Q/RT$ のように書くこと。

#### 10. 単位と略号

種々の物理量の単位およびその用語と記号は国際単位系SI (metric system)を基本とするが、各学問分野で慣用的に用いられている単位でSI単位に置き換えがたいものは使用しても差し支えない。ただし、1つの論文の中で2種類の単位系を混用しないこと。

## 11. 物質の略称ならびに表示法

常用的に使用されている物質名のうち、極めて使用頻度が高くまた、使い方が国際的に共通の略称で統一されている物質名については、定義なしで略称を用いることができる。

## 12. 学名

生物の学名はイタリックを用いる。

## 13. 数字の書き方

数字はアラビア数字を用い、紛らわしい表示は極力さける。

## 14. 分析値の表示法

分析値の表示は、通常実験の部で行う。測定法の略称、測定単位、測定値、帰属、などを盛り込んで簡潔に記載すること。

論文末に一括掲載する。

- 2) 本文または注記における文献の引用は次のとおりとする。

主語の場合：

蓮見ら(1996)は、…上野・加藤(1999)によれば…  
Sheldon(1996b)によれば、…  
MinowとRakoff(1998)は、…

文末表示の場合：

…である(樋口, 1990)。…との指摘がある  
(安田・千葉, 1998)。…と言える(Tyack, 1887b).

ページを特定する場合：

…と論じている(伊藤, 1998:135-140).  
…と指摘する(Epstein and Knight. 1999, 217-219).

## 3) 引用文献の表示方法

- ・ 日本語文献と外国語文献を一つにまとめて、各文献を筆頭著者の姓のアルファベット順にする。
- ・ 同一発行年による著作が複数ある場合には、(2000a)(2000b)のように区別する。

日本語単行本：

著者. 発行年. 「書名」 出版社名  
(例) 岡田与好. 1987. 「経済的自由主義」 東京大学出版会

日本語雑誌論文：

著者. 発行年. 「題名」「雑誌名」巻(号)：ページ～ページ  
(例) 石剛. 1993. 「ポスト植民地主義と日本の言語学的状況」「現代思想」21(7):196-208.

外国語単行本：

著者. 発行年. 書名(イタリック表記) 出版地：出版社名  
(例) Clayton, C. and Howard Gillman eds. 1999. Supreme Court Decision-Making. Chicago: The University of Chicago Press.

外国語雑誌論文：

著者. 発行年. “題名” 「雑誌名」(イタリック表記)巻(号)(ボールド表記)：ページ～ページ  
(例) Conkel, Daniel O. 1997. “The Second Death of Substantive Due Process” Indiana Law Journal 62: 215-242.

## 5. 表・図・写真・その他の表記

表・図・写真・その他の表記については、科学論文の規程に準ずる。

## 文系・総合系論文(和文・英文)執筆要項

## 1. 一般的注意事項

原稿はコンピュータを用いて作成する。和文原稿の場合、A4版を縦長にして40×40行とし、文字間隔ともに適当にとり読みやすいようにする。英文原稿の場合は英文科学論文の規定に準ずる。論文の長さ(本文のみ)は、和文原稿の場合20,000字以内を原則とし、英文原稿の場合は約8,000字、を目安とする。いずれの場合も表・図・写真、注記・文献表示を含む。

## 2. 表紙と key words

表紙とkey wordsについては科学論文の規程に準ずる。

## 3. 論文の形式

論文の形式は特に規程を設けない。

## 4. 引用文献

- 1) 注記のつけ方は、本文中に該当人または事項の右肩に引用の順に(1), (1~3)のように番号を付し、